

バーチャル雪まつり2000の 近況報告(10月)

事務局 青柳

参加校はその後も増え、現在25校になりました。中には福井県大野市上庄中学校(北陸支部・小林先生) 熊本県岱明町立岱明(たいめい)中学校(九州支部・堀尾先生)のACE道外支部からの参加も含まれています。遠隔からの参加、歓迎いたします。

今月は、参加校へ出向いてのサポート講習会をいくつか開催しました。

・10月16日午前 張碓小(参加児童43名、先生6名)

接続環境は、WinProxy ノート + PHS を繋ぎ口にして、クライアントは Mac が6台。

・10月16日午後 啓明中(参加生徒18名[美術部]、先生1名)

接続環境は、WinProxy ノート + PHS を繋ぎ口にして、クライアントは Mac が2台。

・10月27日午後 開成小(参加児童27名[パソコンゲームクラブ]、先生2名)

接続環境は、WinProxy ノート + PHS を繋ぎ口にして、クライアントは Win が6台。



張碓は今、さながら Mac 博物館状態。

講師は、水越先生、飯豊さん、事務局の吉田、青柳が交代であたりました。

さて内容ですが、まず最初にアンケートを取りました。今回は、これからのサポート活動の評価のための基礎データとなるように、パソコンやインターネットの利用経験や興味を中心にした設問としました。

続いて、発寒西小の高橋先生が作ってくださったVSF1999のビデオや、今年のホームページを紹介しながら、VSFの様子やこれからの進め方について、なるべく理解してもらえるように説明しました。さらに、今年度バージョンの掲示板を使ってのメッセージの書き方を説明しました。いつも大人を相手にプレゼンする機会の多い私たちですが、子供、特に小学生に説明するのはとても難しいことに気づきました。とりわけカタカナ専門用語の多い分野ですから、それを平易に表現する言葉がなかなか見つからずた

いへん苦心しました。「チャット」「掲示板」「プログラム」など、あたりまえに使っている用語がなかなか通用しません。いやー小



張碓小学校の多目的スペース。ここで弁当を食べたりしてます。

学校の先生って、えらいですねえ。

さておき、後半はいよいよ実習です。とはいえ小学生の場合、キーボードで文章を打てる子供は10名くらい。まずはその子たちにマウスを持たせて、掲示板への書き込みを体験してもらいました。言葉での説明には苦労しましたが、いざパソコンの前に座らせると、子供の好奇心と習得力に驚かされました。札教研や高校新聞研究会など、先生たちの講習会でも教えさせていただいたことがあります。説明はとても真剣に聞いてもらえるのですが、いざ実習になると大人は急に手を引っ込めてしまいます。あげくようやく触ったかと思うと「なんでこれできないの?」の質問責め。引き合いに出して申し訳ないですが、その点子供はどんどんあっちこっち触りながら習得していきます。こりゃー学校で本格的にパソコン使わせ始めたら、先生と生徒の立場が逆転するなー、なんて思いながら、あっという間に実習終了の時間を迎えてしまいました。

わずか1時間たらずの実習でしたが、中学生だと自分で書いた



啓明で。美術部のメンバーです。

イラストを掲示板にアップするところまでたどり着ける生徒もいて、一定の成果はあったのかと思います。詳細な評価はアンケートの結果を分析しなければ分かりませんが、今後のサポートおよ

び調査にも参加校のみなさんのご協力をお願いします。

さて、11月に入ると、アイデア掲示板も本番稼働します。まだ実際のアイデアでなくとも結構ですので、どんどん練習に使ってください(<http://www.miceng.co.jp/NEWBOARD/> から入れます)。



飯豊さんがやさしく教えるよ。

続いて、第1回オフミーティングのお知らせです。

VSF2000の第1回オフミーティングを、以下の通り開催します。内容は、参加校の顔合わせと、これからの進め方とスケジュールなどです。これは決してこの会でアイデアを決めてしまおうというものではありませんから、遠くから参加できないみなさんも心配しないでください。オフミーティングで話し合った内容は、まとめてホームページの方にももちろん掲載しますし、少しでも顔合わせの雰囲気が持てるよう、インターネットを使ったテレビ会議も実施しようと予定しています。参加校のみなさん、ふるってご参加ください！



啓明中では美術室にMacを置きました。

【VSF2000 第1回オフミーティング】

日時：11月13日(土) 13:00～15:00

会場：北星学園女子短大A館4階教室

(札幌市中央区南4条西17丁目2-4、0903-114-8910;

武田先生)

お問い合わせは支部事務局・青柳(aoyagi@hokkaido-np.co.jp、011-210-5506)へどうぞ。

Linuxによるサーバー構築 講座開催

北海道立社会教育総合センター学習情報課 桜庭 望

北海道立社会教育総合センター主催の平成11年度視聴覚教育メディア指導者研修講座・後期が「かでの2・7」10階において、10月6日から8日まで3日間の日程で、開催されました。

今回の講座の目的は「サーバーを運用するための専門的知識・技術をもつ指導者を養成する」ということです。指導者養成ということもあり、ネットワークを徹底的に使っていただくため、受付はWebに限定、事前・事後連絡はメールを使うことにしました。

9月10日にWeb申込登録を開始し、10日不足で定員の30名を越えたことから9月20日からメーリングリストの配信を開始し、講座が始まる前に全員にMLで自己紹介をしていただきました。講師は、マリモインターネットの浅川倫之さんと、インフォ



浅川さんはこういうときどういう教え方をするのかな。

スノーの高本茂さんにお話し、内容はアップトゥデイトな話題をよんでいる「Linuxによるサーバー構築」としました。使用したマシンは日立フローラのノートパソコンで、NICの認識がネックとなることから1日目はOpenLinux(カルデラ社)を使用し、インストール方法を中心に実習しました。

登別南高校の木村先生は初日の感想として、「噂には聞いていましたが、カルデラのinstallの簡単なこと(笑)；以前Plamoを入れたときも驚きましたが、この簡単さには脱帽です。Linuxがわずか30分程度でインストールできるとは、ある意味でWin95より簡単だったかもしれませんが。」とMLに寄せています。マルチタスクでインストールが進み、必要な質問は全て最初に聞いてきて、あとは「ゲームでもやってみなさい」という感じでテトリスが出てきます。講師の浅川さんの思惑通り、初日は「楽しい」雰囲気ができ、Linuxへの抵抗感が薄らぎました。2日目のLASER(Redhat)のインストールでは、同じマシンなのにNICの設定ができないものが1割(3台)あり、UNIXのインストールの壁にあたりました。ビデオカードの選択、ディスプレイのテスト等、オーソドックスなインストールスタイルを経験し、コンポーネントインストール中にネットワーク設計、HUBの段数、スイッチングHUBの働き、プライベートアドレスとグローバルアドレスなどの解説がありました。サーバー本論のApacheの設定に続き、Sendmail.cfでは「V i」が登場し、GUI環境からUNIXらしい操作環境へと、受講者の頭を切り替えてもらう状況に一気に突入しました。

最終日はSambaの設定を中心に、解凍、コンパイル方法などを
実習し、ハードなスケジュールの中で、ネットワーク管理方法な
ど様々な解説が行われました。サポート役の高本さんから、操
作方法のヒントになるような話が随所に出され、3日の研修を



サーバはちゃんと設定しないとダメだよ。

終わりました。

講座は終わりましたが、参加者の方々には、また新たなスタートをきっていただくことができたのではないかと思います。講座終了後のMLでは感想とともに質問や情報交換が続き、ネットワーク管理者の横の連携が進んでいます。参加者の中には、稚内のサマースクールの経験者の他、7月、8月に道都短大で行われた「パソコンを使ったインターネットワーキング入門」セミ



みっちりやろうね。

ナーの参加者も多く、密度の濃い内容を設定できたのも各地でこうしたセミナーが開催されているおかげです。参加者の皆さんが、それぞれの学校や社会教育施設で、研修内容を実践的に活用していただく日がくることを願っています。

<http://www.manabi.pref.hokkaido.jp/m112/index.html> で講座内容や実習風景を公開しています。

情報化推進コーディネータ (ITC) 研修に参加して

発寒中 荒島

情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究(<http://www.monbu.go.jp/singi/chosa/00000301/contents.html>) の具体化をめざした「情報化推進コーディネータ」

の育成のためのプログラム検証のための研修会に参加しています。

会場は神奈川マルチメディアセンター(横浜市・岩崎学園)で、8月、9月、11月と研修が続きます。全国から集められた20名(学校関係者10名、企業関係者10名)の受講生は昼食を食べる間もなくハードな研修に取り組んでいます。それにもまして、事務局や講師陣の熱い思い入れと献身的な指導にはつくづく頭が下がります。それにしても永井「校長」をはじめ、美馬先生、山西先生、原先生、堀田先生など現在の日本の情報教育をリードする研究者、高橋先生、渡辺先生など学校での実践を構築してきたオピニオンリーダーといった豪華な講師陣です。これだけの研修は今まで聞いたことがないです。

情報化推進コーディネータの研修内容は、校務、学習環境デザイン、教育カリキュラム、ネットワークテクノロジーなど多岐にわたりますが、中でも特に要求されているのはプレゼンテーションスキルです。

第2回の研修では「ある小学校にコンピュータを導入するためにITCとして校長と一緒に教育委員会に陳情に行く」という設定のもとにプレゼンすることが課題でした。結果的には20名全員が不合格という、講師陣を慌てさせる結果となりました。そこで急遽課題が変更されることになりました。

第3回の課題はdo-aceに流したものです。今回の研修が最終回となり、全員合格をめざしてそれぞれが取り組んでいる最中です。しかし、前回の結果にひるんでなかなかよいアイデアが浮かびません。何とか北海道支部の英知を集めての後押しをお願いしたいと思います。

なお、第3回の研修が終了しましたら今までの資料を整理し、みなさんに公開できるように頑張りたいと思います。

お知らせ

北海道発明工夫教育連盟研究大会札幌大会が11月26日(金曜日)に札幌市立発寒西小学校を会場に行われます。研究授業は、ACE会員の発寒西小学校の高橋先生です。1年生の生活科の授業で、「インターネットであそぼう」がテーマ、先生を中心に地域の方々の支援も交えて授業が進められるという試みです。

また、研究事例発表も、これまた会員の開成小学校の「姉御」が発表されます。詳しくは、実施要領をご覧くださいまして、沢山のご参加をお願いいたします。

<http://onko.ncf.or.jp/hatsumei/1999/index.html>

地域と学校の連携による取り組みが、全国各地で行われています。ここ北海道でもいくつかの活動が行われ、それはNet DayやNext Dayとして実を結んでいます。さらに札幌近郊の地域住民ネットワークは、さらに、よこに繋がろうという試みが行われますのでご紹介します。

「札幌・コミュニティネットワークづくりフォーラム」の開催について

ネットワークコミュニティフォーラム(NCF99)

日頃よりみなさまには当団体に対して格別のご理解とご協力をいただき、たいへんありがとうございます。

さてこのたびは、活発となってきた札幌市内の各地域ネットワークコミュニティの方々にお集りいただき、お互いの取り組みの現状と今後の連携に向けたフォーラムを開催することとなり、

ご案内する次第です。都市化に伴う地域社会の崩壊が指摘されて久しい中、札幌のように区単位、コミュニティ単位で情報ネットワークを活用して地域づくりに取り組んでいる事例は全国的にも珍しく、地域コミュニティの再形成に向けた実験的取り組みとしても注目すべきものと考えております。

趣旨ご理解のうえ何卒、ご協力・ご参加賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

名称 「札幌・コミュニティネットワークづくりフォーラム」
 日時 1999年11月27日(土) 10:00から15:00
 場所 清田区民センター「区民ホール」
 清田区清田1条2丁目5-35 電話 011-883-2050
 主催 ネットワークコミュニティフォーラム'99
 後援 西岡地域情報化推進協議会、星置情報化プロジェクト、東区ネットワークコミュニティ、清田ネットワークコミュニティ
 内容
 10:00 開会
 10:15 対談「ネットワークを活用した新しいコミュニティづくり」
 札幌大学 千葉 博正 教授
 大妻女子人間関係学部 干川剛史助教授
 11:00 車座談義「市内コミュニティ・それぞれの取り組みについて」
 12:00 昼食(各自ご持参ください)
 13:00 ワークショップ「親子で楽しむコミュニティゲーム」
 ・コミュニティ対抗綱引き
 ・コミュニティ対抗大玉ころがし
 ・コミュニティ対抗玉入れ
 ・コミュニティ対抗騎馬戦
 15:00 終了

申込み方法

住所、氏名年齢(参加されるかたご家族の全員)を明記の上、「コミュニティネットワークづくりフォーラム参加希望」としてFAXでお申込みください。

申込み、問い合わせ先

札幌市中央区北一条西三丁目 第百生命ビル五階 札幌市ネットワークプラザ
 電話 011-211-3435 申込み先 FAX 011-218-6752

メディアハンティング'99 ファイナルステージ!

昨年に引き続き開催されているデジタルコンテンツのコンテスト、メディアハンティング'99がいよいよファイナルステージを迎えます。

昨年からよりパワーアップされた作品群のプレゼンテーションに加えて、多彩なメンバーの審査員によるセッションも見物です。

ファイナルステージは11月29日(月)の午後、昨年と同じジャスマックプラザ・ザナドゥで行われます。クリエイターとメディアの熱きバトルの場に集結しましょう。詳細は下記URLから。

<http://www.aurora-net.or.jp/event/hunt/>

おわびと訂正

今回「ACE News Letter DIRECT 30」が同封されている会員の方にお知らせします。

4ページに掲載されている基調講演2「情報化社会における感性・心の教育」明星大学 感性教育研究所 所長 高橋 史郎先生の講演録が、当日行われた基調講演1の内容と間違えて掲載されてしまいました。ここに訂正し、おわび申し上げます。

編集後記

涙の室蘭入江競技場から一年、札幌は奇跡の逆転昇格をものにすることができるでしょうか。続きはスタジアムでね。(吉田)

うちにも子ヤギが生まれました。3700グラムのオスで、けっこうでかいなー、と思っていたのですが、なななんと、少し後に生まれた塩谷さんちのこっちは、3900グラム近いって一ことでまたびっくり。10年スパンでみると出産体重は増加しているそうなので、このまま行くと将来は5000グラムの赤ん坊が出現する...わけないね。(青柳)

いよいよTAOが動き出しそうです。しかし、一部にポートがあげられないとの話もあり、インターネットTV会議は壊滅状態という噂もあります。本校にも全国から酸性雨やNOxの共同観測の交流をぜひTV会議でとのお誘いを受けますが、なかなかどうして。今回の研究指定を受けた学校がどんどん使って、いろいろな問題点や要求をあげていく必要があります。さて、ITCの課題どうしよう。(荒島)

今日、うちの学生(といっても僕のクラスの生徒じゃないのですが、はは。)が市内の企業が主催するCGコンテストでグランプリを受賞した。というお話を聞きました。グランプリを受賞した事自体もとてもすばらしい事ですが、聞くところによると彼自身は「在学中に必ずたくさんコンテストに入賞する!」という事を目標にして頑張ってきたというではありませんか。うっかり間違っただけでコンテストに入賞してしまうなんて事もありますもんですから、件の学生のように、偶然ではなく必然として結果を出すことができるのが、本当の実力なのかな?と感心させられてしまいました。何につけても目標に向けて真摯に努力する姿勢は、教師・学生の立場を問わず、大切なものだよな...っと。頑張らなきゃ!(見澤)

やぎへいが嫁をもらって1年がすぎ、また秋の収穫のころとなった。青く広々と澄みわたった青空の下、腰を伸ばしながら鎌を置き汗を拭いた。ふと、赤子の泣き声がしたような気がして、ひとり苦笑いをした。こやぎが生まれ、やぎへいは、幸せだった。近所に住む庄屋のスクルージは、そんなやぎへいが妬ましく、介護保険料を値上げすることにしたが、それでも、やぎへいは幸せだった。子は、それほど宝なのだ。宝といえば焼酎で、また、うまい季節がやってきた。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年10月28日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532